第６節　音　楽

第１　本資料の活用について

１　作成の基本的な考え方

⑴　小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（音楽編）及び埼玉県小学校教育課程編成要領を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、音楽科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。

⑵　教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を各事例のア、イ、ウで具体的に示している。

２　取り上げた内容

第１　本資料の活用について
第２　音楽科における学習指導と評価
　１　育成を目指す資質・能力の三つの柱について
　２　「音楽的な見方・考え方」を児童が働かせることのできる音楽科の学習等について
　３　音楽科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
　４　観点別学習状況の評価の観点について
第３　題材の指導と評価の計画及び改善
　１　題材計画の作成と評価及び改善の考え方
　２　題材の指導と評価の計画例（事例１）
　３　題材の学習指導と評価、改善（事例２～６）
第４　学習指導案の作成と評価及び改善
　１　音楽科学習指導案の事例（事例７）
第５　音楽科における学習評価の評定への総括例
　１　観点別学習状況の評価の例
　２　学期末における観点ごとの評価の総括例

指導計画作成の留意事項

編成要領（編 P99）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連については各事例の指導案上に、吹き出しで示している。

⑴「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
⑵「主体的・対話的で深い学び」の視点
⑶「教科横断的」な視点
⑷「社会に開かれた教育課程」の視点
⑸「道徳教育の充実」の視点

事例１　第６学年「我が国の伝統音楽『越天楽』と『越天楽今様』を用いた、表現と鑑賞の関連を図る学習の事例」
事例２　第５学年「曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する歌唱の学習の事例」
事例３　第３学年「曲想と音楽の構造との関わりに気付き、工夫して演奏する器楽の学習の事例」
事例４　第２学年「即興的にリズムを選んだりつなげたりする音楽づくりの学習の事例」
事例５　第５学年「プログラミング的思考の伸長をねらった音楽づくりの学習の事例」
事例６　第３学年「効果的な手立てを工夫した鑑賞の学習の事例」
事例７　第４学年「我が国の音楽『さくら さくら』を用いた、表現と鑑賞の関連を図る学習の事例」

３　本資料の活用に当たって配慮すること

⑴　学習指導要領第２章第２節「音楽科の内容」においては、各領域や分野の事項アに「思考力，判断力，表現力等」、事項イに「知識」、事項ウに「技能」に関する資質・能力を示している。

このように、内容を資質・能力ごとに個別に示してはいるが、ア、イ及びウを適切に関連付けて扱うとともに、〔共通事項〕との関連を十分に図った題材を構成することが不可欠である。

⑵　各学校においては、各学校の特色、児童の実態、学校、家庭、地域の特色を生かした年間指導計画を作成の上、題材ごとの具体的な目標や評価規準を設定し、より適切な指導方法と評価方法を工夫改善し、実践することが大切である。また、本資料の事例では、本時の学習活動に即した評価規準例を具体的に示してある。各事例の評価の工夫について、他の題材に応用するなど創意工夫し、学習評価の充実、授業改善に取り組んでいくことが重要である。

４　学力・学習状況調査等の活用

「非認知能力」の向上や、「学習方略」の改善を通じて、音楽科の側面から学力を向上させる手立てとして大切にしたいことは、次のようなものが考えられる。①知識や技能を得たり生かしたりしながら授業を展開させる工夫、②協働的に学習を進める展開の工夫、③課題に対し粘り強く最後までやり抜くことができるような指導の工夫などである。また、様々な活動を通し、自信をもって思いや意図を表現できる力や発信できる力（自己効力感）を高めていく。

第２　音楽科における学習指導と評価

１　育成を目指す資質・能力の三つの柱について

音楽科では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のように育成することを目指している。

	⑴知識及び技能	⑵思考力，判断力，表現力等	⑶学びに向かう力，人間性等
教科の目標	曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに，表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽表現を工夫することや，音楽を味わって聴くことができるようにする。	音楽活動の楽しさを体験することを通して，音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに，音楽に親しむ態度を養い，豊かな情操を培う。

２　「音楽的な見方・考え方」を児童が働かせることのできる音楽科の学習等について

（編 P98指導計画作成の基本的な考え方（2）参照）

音楽的な見方・考え方は、音楽科における学びの深まりの鍵となるものであるが、児童が自分の力だけで音楽に対する感性を働かせたり、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えたりすることが難しい場面もある。したがって、音楽科において児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るようにするためには、学習過程や学習活動において、音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、効果的な指導の手立てを工夫することが重要である。

３　音楽科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること。（解Ｐ３～4、解 P115～117参照）

４　観点別学習状況の評価の観点について

⑴　評価の観点及びその趣旨について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け，歌ったり，演奏したり，音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように表すかについて思いや意図をもったり，曲や演奏のよさなどを見いだし，音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

⑵　学年別の評価の観点の趣旨について（□は学年により異なる表現の部分）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【評価の観点の趣旨】第１学年及び第２学年		
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・音楽表現を楽しむために必要な技能を身に付け，歌ったり，演奏したり，音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように表すかについて思いをもったり，曲や演奏の楽しさを見いだし，音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
【評価の観点の趣旨】第３学年及び第４学年		
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け，歌ったり，演奏したり，音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように表すかについて思いや意図をもったり，曲や演奏のよさなど見いだし，音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

【評価の観点の趣旨】第５学年及び第６学年		
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け，歌ったり，演奏したり，音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，どのように表すかについて思いや意図をもったり，曲や演奏のよさなど見いだし，音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

⑶　音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価について

学びに向かう力，人間性等	感性，思いやりなど	音楽科における「感性，情操，心情」等	**個人内評価**を通じて見取る部分
	主体的に学習に取り組む態度	粘り強い取組を行おうとする側面 自らの学習を調整しようとする側面	**観点別評価**を通じて見取る部分

⑷　個人内評価の扱いについて

個人内評価とは観点別学習状況の評価には示しきれない児童の一人一人のよい点や可能性、進捗の状況について評価するもの。

音楽科に関わりの深い「感性や思いやりなど」の児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童に伝えることが重要である。

⑸　学習活動に即した評価規準設定の作業手順（国立教育政策研究所資料第２編、第３編参照）

題材における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。

ここでは、「事例１　第６学年　我が国の伝統音楽「越天楽」と「越天楽今様」を用いた、表現と鑑賞の関連を図る学習の事例」の評価規準を設定する場合を例にする。①～⑨の作業手順で行う。

（◆がついている番号については事例１を例に具体的に記述する。）

①学習指導要領　第５学年及び第６学年の音楽科の目標を確認する。 ②文部科学省通知に示された「音楽科の評価の観点及びその趣旨」と「学年別の評価の観点の趣旨」を確認する。（P127、４⑴⑵参照） ③学習指導要領に示された教科の目標を踏まえ、学校・児童の実態を明確化する。 **◆④学習指導要領解説を参考にし、学校・児童等の実態を考慮して題材及び題材の目標を設定する。** ⑤「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。（P130、４⑹参照） **◆⑥題材の評価規準を設定する。** **◆⑦指導と評価の計画を作成する。**（評価場面や評価方法等を計画する。）（P133 参照） ⑧評価規準に達しない児童への手立てを設定する。 ⑨授業を行い、評価結果などから観点ごとの総括的評価を行う。（P147 参照）

◆④学習指導要領解説を参考にし、学校・児童等の実態を考慮して題材及び題材の目標を設定する。

<事例１>　我が国の伝統音楽「越天楽」と「越天楽今様」を用いた，表現と鑑賞の関連を図る学習の事例

（P132 参照）

・題材の目標は，⑴～⑶の三つの柱で書く。

⑴　音色や旋律などと曲想との関わりを理解するとともに、日本に古くから伝わる歌の特徴を生かし、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。〈知識及び技能〉 ⑵　楽器の音色や旋律、リズム、拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、日本や世界のいろいろな国の音楽のよさなどを見いだしながら聴くとともに、日本に古くから伝わる歌の特徴を生かし、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。<思考力，判断力，表現力等> ⑶　日本や世界のいろいろな国の音楽の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱及び鑑賞の学習活動に取り組み、我が国の伝統的な音楽や世界の音楽に親しむ。〈学びに向かう力，人間性等〉

◆⑥題材の評価規準を設定する

※学年や領域及び分野によって文言が異なるため、学年別の評価の観点の趣旨に合わせて設定する。

知識，技能については，評価場面の順番で①技、②知、③知技等記入する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知越天楽の曲想と音楽の構成や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌唱） ②知曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑賞） ③技思いや意図に合った表現をするために必要な、~~呼吸及び発音の仕方に気を付けて、~~（※１）自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付け、*歌唱*で表現している。（歌唱）	思①音色、旋律、リズム、拍（※２）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いている。（鑑賞） 思②音色、旋律、リズム、拍（※２）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや越天楽今様の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。（歌唱）	態①日本や世界のいろいろな国の音楽の音色や旋律の特徴などに（※３）興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌唱・鑑賞）

評価の観点		ポイント
知識・技能	知識	・「知識」については、観点の趣旨を「〜について気付いている。」、「〜について理解している。」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができる。
	技能	・「技能」については、具体的には、　　の部分に、その題材に応じた事項ウに置き換える。 ・下線部は、「*歌唱、器楽、音楽づくり*」から選択して置き換える。 ・鑑賞では技能の評価はしない。 ・音楽づくりの技能の事項ウ(ア)（イ）によって、文頭が違うので注意する。 　ウ（ア）の場合：発想を生かした表現をするために必要な，　　（事例４参照） 　ウ（イ）の場合：思いや意図に合った表現をするために必要な，（事例５参照） ※１　事項に示している内容のうち、本題材の学習で扱わない部分については削除できる。
思考・判断・表現		**※２**「児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」には、学習指導要領「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」の２(8)に示した「ア　音楽を特徴付けている要素」や「イ　音楽の仕組み」から、**「音色，リズム，速度，旋律，強弱，音の重なり，和音の響き，音階，調，拍，フレーズ，反復，呼びかけとこたえ，変化，音楽の縦と横との関係など」**の中から、その題材において児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して置き換える。
主体的に学習に取り組む態度		**※３**　文頭に、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、興味・関心をもたせたいことや、扱う教材曲や曲種等の特徴などに関する事柄を記載する。

◆⑦指導と評価の計画を作成する。　（本時の評価：第２時間目の例　P133 参照）

思①音色、旋律、リズム、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いている。（鑑賞）【評価方法：発言、記述】

②知曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑賞）【評価方法：観察、発言、記述】

観点別の学習状況について、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に活かすことが重点だが、記録を残すことについては、毎回の授業ではなく原則として題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要である。

⑹　内容のまとまりごとの評価規準の例について
紙面の都合上、**「第３学年及び第４学年」**の例を記載した。

	知識・技能 （上段：知識、下段：技能）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Ａ表現⑴歌唱	・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。 - - - - - - - - ・思いや意図に合った表現をするために必要な，範唱を聴いたり，ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能を身に付けている。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な，呼吸及び発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な，互いの歌声や副次的な旋律，伴奏を聴いて，声を合わせて歌う技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生みだすよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
Ａ表現⑵器楽	・曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。 ・楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。 - - - - - - - - ・思いや意図に合った表現をするために必要な，範奏を聴いたり，ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能を身に付けている。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な，音色や響きに気を付けて，旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けている。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な，互いの楽器の音や副次的な旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生みだすよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
Ａ表現⑶音楽づくり	・いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について，それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。 ・音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について，それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。 - - - - - - - - ・発想を生かした表現をするために必要な，設定した条件に基づいて，即興的に音を選択したり組み合わせたりしたりして表現する技能を身に付けている。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な，音楽の仕組みを用いて，音楽をつくる技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，即興的に表現することを通して，音楽づくりの発想を得ている。 ・音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，音を音楽へと構成することを通して，どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。
Ｂ鑑賞	（知識のみ） ・曲想及びその変化と，音楽の構造との関わりについて気付いている。	・音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさなどを見いだし，曲全体を味わって聴いている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※　県ホームページに、全学年分の例を掲載しますので、そちらを参照してください。

第３　題材の指導と評価の計画及び改善

１　題材計画の作成と評価及び改善の考え方

⑴　題材の指導計画を作成するに当たっては、以下の点に留意する。

①　内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方･考え方を働かせ、他者と協働しながら、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること。
②　表現（歌唱、器楽及び音楽づくり）の指導については、「思考力、判断力、表現力等」、「知識及び技能」の各事項を、鑑賞の指導については、「思考力、判断力、表現力等」及び「知識」の各事項を適切に関連させて指導すること。
③〔共通事項〕については、表現及び鑑賞の学習において共通に必要になる資質・能力であり、各領域や分野の事項との関連を図った上で、十分な指導が行われるように工夫すること。また、〔共通事項〕の事項アについては、全ての題材で必ず位置付けること。

⑵　題材の評価計画の作成に当たっては、以下の点に留意する。

①「Ａ表現」の目標において、「知識・技能」の観点の趣旨は、知識の習得に関することと技能の習得に関することとに分けて示されているため、それぞれの評価を行うようにすること。また、評価場面や評価方法も、それぞれに設定すること。
②「主体的に学習に取り組む態度」については、時間をかけて育成されるものであるという趣旨から、題材を通じて総合的に評価すること。
③〔共通事項〕の事項アは、全ての題材に位置付くものであるため、「思考・判断・表現」の観点の中で評価すること。
④〔共通事項〕の事項イは、知識（主に、曲想と音楽の構造との関わり）を習得する過程や結果において理解されるものであるため、「知識」の観点として直接的に評価しないこと。

⑶　題材の指導計画の評価結果を基に、以下の内容等について振り返るようにする。その際、１単位時間の授業ごとに考えるのではなく、題材ごとに検討するようにして、改善を図る。

①　学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「内容のまとまり」（歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞）と「評価の観点」（思考・判断・表現、知識・技能）とを関連付けた指導計画になっていたか。
②　主体的に学習に取り組めるように、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面が設定されていたか。
③　対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面が設定されていたか。
④　児童が考える場面と教師が教える場面が、適切に設定されていたか。また、それらが、学びの深まりを作り出すことにつながっていたか。

⑷　幼・小の接続を踏まえた学習指導の留意点

幼稚園教育要領において、豊かな感性を養うために、幼児を取り巻く環境を重視することや、教師が幼児を温かく見守り、共感することが重要だと示されている。また、「表現」の〔内容〕⑹では、「音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」と示されている。よって、入学間もない児童も、音楽にかかわる活動や、それらから想像を巡らせる経験を十分にしてきていることを念頭に、以下の点に留意して指導する必要がある。
①　低学年においては、他教科との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。
②　幼稚園教育要領等に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮すること。
③　小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。(スタートカリキュラムの実践)
例)・幼稚園や保育園で覚えた歌やフレーズ（意欲付け、安心感や期待感）
・リトミックを取り入れた活動（リズムに合わせて動くことで、曲想や拍をつかむ）
・音のサイン・指示（耳をすませることの重要性、音楽科の特性や約束ごとの確認）
・わらべうた（我が国の音楽への親しみ、手遊び等を通して友達との関係づくり）
・掲示物の工夫（読譜や音楽科としての目標につなげていく）　等

参考：⑷「接続期プログラム」（平成24年3月）埼玉県教育委員会
⑷「接続期プログラム」実践事例集（平成25年3月）埼玉県教育委員会

２　題材の指導と評価の計画例

＜事例１＞　我が国の伝統音楽「越天楽」と「越天楽今様」を用いた、表現と鑑賞の関連を図る学習の事例
第６学年「日本や世界の音楽に親しもう」（指導要領との関わり：Ａ表現（１）歌唱　ア，イ，ウ(ｲ)　Ｂ鑑賞ア，イ）
〔児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕音色，旋律，リズム，拍

１　ア　題材の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

　４時間の指導計画作成に当たり、次の点について指導の充実を図ることを意識する。

　一つ目に、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値を考えたりして、音楽文化について関心を深めるために、学習内容に応じて、個人、ペア、グループ、全体等、多様な学習形態を用いて、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る。二つ目に、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを味わうことができるよう、児童にとってより身近な生活体験と関わらせて学習を進めるために教材を工夫する。また、学校や地域の実態に合った人材活用、視聴覚教材を含めたデジタルコンテンツ等を利用する。

P126 指導計画作成の留意事項⑴

我が国や郷土の伝統音楽の学習に当たっては、P126 指導計画作成の留意事項のうち、⑶「教科横断的」、⑷「社会に開かれた教育課程」などを工夫して計画を立てる。

イ　学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

　学習評価については、次の点について配慮する。

評価の３観点について指導事項にあった評価項目を明確に示す。特別な配慮を必要とする児童の評価については、児童の実態に応じた目標と特性を生かした活動を設定し、児童の伸びや変容を評価するよう配慮する。さらに、全４時間の題材の指導・評価の中で、１時間内で評価するものと、２～３時間の継続的な取組の中で学習を深めた状況を評価するものとを設定する。

２　題材の評価計画（４時間扱い）

ア　題材の目標

⑴　音色や旋律などと曲想との関わりを理解するとともに、日本に古くから伝わる歌の特徴を生かし、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。〈知識及び技能〉

⑵　楽器の音色や旋律、リズム、拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、日本や世界のいろいろな国の音楽のよさなどを見いだしながら聴くとともに、日本に古くから伝わる歌の特徴を生かし、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。〈思考力、判断力、表現力等〉

⑶　日本や世界のいろいろな国の音楽の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱及び鑑賞の学習活動に取り組み、我が国の伝統的な音楽や世界の音楽に親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

注意：知識・技能については、評価場面の順番で①②③と左側に付ける。例：①技などもある。

イ　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知越天楽今様の曲想と音楽の構成や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌唱） ②知曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解している。（鑑賞） ③技思いや意図に合った表現をするために必要な、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付け、歌唱で表現している。（歌唱）	思①音色、旋律、リズム、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いている。（鑑賞） 思②音色、旋律、リズム、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや越天楽今様の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。（歌唱）	態①日本や世界のいろいろな国の音楽の音色や旋律の特徴などに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌唱・鑑賞）

ウ　指導と評価の計画（全４時間）　**※丸数字・・・全員の学習状況を記録に残す場面**

時	◆ねらい ○学習内容　・学習活動	○指導上の留意点	評価規準 知技	思	態
１	◆日本に古くから伝わる音楽について知り、歌ったり聴いたりする。				
	○「越天楽今様」を歌い、曲の特徴を捉える。 ・歌詞の意味を理解する。 ・歌詞を朗読する。	○歌詞が表す情景を思い浮かべられるように視聴覚機器等で画像を提示する。 ○歌詞が七五調でできていることに気付かせる。			

P126 指導計画作成の留意事項⑶

1	・範唱を聴きながら歌う。 ○雅楽「越天楽」を鑑賞し、曲全体について知る。 ・曲を聴いた第一印象を言葉にする。 ・映像で演奏の様子を見ながら聴く。 ・映像で雅楽の歴史や楽器の名前や音色、演奏方法について知る。(社会科の歴史や地理との関連) ・楽器の特徴をつかむ。	○無理のない自然な歌い方を真似させる。 ○七五調のリズムを崩さないように息つぎを確認させる。(国語との関連) ○掲示資料やデジタルコンテンツを活用し、雅楽に興味・関心をもてるようにする。 ○２種類の方法（①音声②映像と音声）で視聴し、「楽器や音楽の特徴」と「音楽の雰囲気」に気を付けて鑑賞させる。	① 知 観察・発言・記述		
2	◆雅楽「越天楽」の音色、旋律、リズム、拍などの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴く。				
	○雅楽「越天楽」の音色、旋律、リズム、拍などの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。 ・雅楽の演奏に合わせて手で拍をとる。 ・雅楽の演奏に合わせて、旋律楽器の音色を真似して歌ったり、手で拍をとったりしながら、旋律、リズム、拍について気付いたことや不思議に思ったことを共有する。 ・再度「越天楽」を鑑賞し、曲の特徴を確認する。 ・本時で学習したことをもとに、雅楽のよさや面白さについて感じたことをワークシートに記入し、発表する。	○演奏に合わせて歌ったり拍をとったりすることにより、雅楽の特徴を実感できるようにする。 ○児童のつぶやきを大切にし、次の展開につなげるようにする。 ○旋律、リズム、拍などの特徴を把握させるために、雅楽の演奏に合わせて楽譜をなぞりながら「越天楽今様」を歌わせる。 ○雅楽の演奏に合わせて歌ったり拍をとったりして、さらに強く感じ取ったよさや面白さを話し合い等によって深めるようにする。 ○音楽的根拠をもとに発表させ、互いの考えを共有できるようにする。	② 知 観察・発言・記述	① 発言・記述	
3	◆聴き取ったり感じ取ったりした雅楽の特徴に気を付けて、どのように歌うかについて思いや意図をもって歌う。				
	○聴き取ったり感じ取ったりした雅楽の特徴に気を付けて、どのように歌うかについて思いや意図をもって歌う。 ・歌詞の表す情景を思い浮かべて、発音や発声に気を付けて歌う。 ・言葉のまとまりや語感、リズムや旋律の動きに合う歌い方を工夫する。 ・グループごとに演奏発表をし合い、互いの演奏に対して意見交換をする。 ・日本古来の歌い方を意識して、自分たちなりの歌い方で演奏する。 ・日本に古くから伝わる音楽のよさや面白さをまとめる。 ・学習したことをもとに、日本に古くから伝わる音楽の魅力をワークシートにまとめる。	○音楽の雰囲気や雅楽らしい特徴（音色、旋律、リズムのずれなど）を表現できるように、呼吸や発音の仕方、速度などを工夫して歌うようにする。 ○笙の和音のイメージをもちながら、伴奏楽器の音色を工夫させる。 ○個人または友達と協働しながら音楽表現を工夫させる。 ○思いや意図を言葉や音楽で伝え合うことと、実際に歌ってみることとを繰り返しながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫させる。 ○お互いの演奏を聴き合い、気付いたことや感じ取ったことなどについて発表させる。 ○雅楽「越天楽」の雰囲気を思い起こし、それぞれのグループの発表での成果と課題を踏まえながら、歌い方を確かめ合って歌えるようにする。	③ 技 観察・聴取	② 発言・記述	
4	◆世界の国の音楽の特徴や演奏のよさを味わって聴く。				
	○それぞれの国の音楽の特徴や演奏のよさを感じ取る。 ・雅楽と諸外国の音楽を比べながら聴く。 ・それぞれの国の音楽の特徴や演奏のよさについて話し合う。	○楽器の演奏方法、音色、リズムなど特徴を捉えられるようにする。 ○雅楽と諸外国に伝わる音楽を比較することにより、特徴を捉えられるようにする。			

P126 指導計画作成の留意事項⑶

丸数字は、全員の学習状況を記録に残す場面。

「知識・技能」の表記は、2 行分のスペースを取り記入する。
知は左側、技は右側　（鑑賞のみの場合は、知識のみでよい。）

評価を見取るところから矢印を付ける。

鑑賞で学んだことを生かして歌唱の学習につながるようにする。

音楽

4	○紹介文を書き、それぞれの国の音楽のよさや面白さを味わう。 ・今回学習した中から、気に入った音楽を選び、その音楽の紹介文を書く。 ・友達と紹介文を発表し合う。 ・学級全体で紹介文を発表し合い、様々な国の音楽への理解を深める。（社会科の歴史や地理との関連）	○自分の考えを友達と意見交換をし、話し合うようにする。 ○発表を聞き、特徴や演奏のよさを味わうようにする。	② 知 観察・発言・記述	① 発言・記述	① 観察・発言・記述

P126 指導計画作成の留意事項(2)(3)

雅楽での既習事項を想起し、比較しながら、世界の多様な音楽文化に触れることができるように、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションが図れるよう工夫する。

態の評価方法には、「観察」を入れることが望ましい。

3　指導事項と本時の目標と、評価規準作成の関連（３時間目の例）

ア　A表現（１）歌唱　ア、イ、ウ(ｲ)

実際の歌唱技能の評価の場面では、声の質（音色）、旋律の音の動き方、歌と楽器との関わり方、拍など、個人やグループで表現の意図をはっきりさせ、それが伝わるかどうか演奏を聴取し評価する。また演奏後、児童または教師が演奏に対して質問をし、どんなことを大切にして演奏したのかをくみ取ることも行い、ここでのやり取りで分かったことも評価に加味する。また場合によっては、部分的にもう一度演奏させ、先ほどの演奏より改善されているようであれば、新たな演奏を評価の対象とする。

ワークシート例

♪　日本や世界の音楽に親しもう

♪　日本に古くから伝わる音楽に触れてみよう

①知を見取る部分

1　雅楽「越天楽」を聴いてどんなことを感じましたか。その理由も書こう。

	第一印象	学習してみて
一言で表現	和風　つまらない　不気味　違和感	落ち着く　優雅　あいまい　奥深い
その理由	最初の笛の音が不気味だった。 速度が遅すぎて違和感がある。	よく聴いていくと、音楽がゆっくりのんびりしていて優雅に感じた。

2　雅楽「越天楽」を聴き、雅楽を特徴づけているものは何だと思いましたか。

下のキーワードを使い、雅楽の魅力について、感じたことや分かったことを書こう。

音色　旋律　リズム　拍　その他

１つの楽器の旋律が途切れそうになったら他の楽器の音が聴こえてくることが分かった。だから、１つ１つの楽器の音色を楽しむことができる。
４拍目が伸びて、ためがあることが分かった。そして、１拍目に入るところでジャランとずれているのが面白いと思った。
自分たちが普段やっている音楽では拍を数えられるけど、数えるのが難しい部分がある。でも、そろうべきところがちゃんと合っていて、指揮がいないのにすごいと思った。

思②を見取る部分

3　「越天楽今様」を歌うとき、特にどのようなことに気を付けて歌いたいですか。理由も書きましょう。

気を付けたいこと	理由
拍	雅楽「越天楽」の旋律に歌詞がつけられたものなので、雅楽と同じように１拍目に向かって自然に音が集まるように、伴奏も聴きながらビシッとそろえないように歌いたい。
速度や音の長さ	雅楽はいつもと違ってゆっくり演奏されていたから、息をたっぷり吸って音が途切れないように百人一首をよむように歌いたい。

4　日本に古くから伝わる音楽として、「越天楽今様」と雅楽「越天楽」を学習しました。それぞれの音楽の特徴と関連させながら、自分の考えをまとめましょう。

物がない時代にこんなに豪華な音が出せることが分かった。また、昔の人も自分たちと同じように自然の美しさや香りを楽しんでいたことが分かった。とてもゆっくりで同じ旋律が繰り返され、前に進んでいかない感じが面白い。今様を歌うのは、最初は難しかったけれど、声の出し方の工夫で平安時代の雰囲気が出せるのではと思った。慣れてくると歌いやすかった。

態②を見取る部分

♪　世界の音楽に触れてみよう

３　題材の学習指導と評価、改善

＜事例２＞　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する歌唱の学習の事例
第５学年「詩と音楽のかかわりを味わおう」（指導要領との関わり：Ａ表現(１)歌唱ア，イ，ウ(ｲ)）
〔児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕リズム，速度，強弱

１　題　　材　　詩と音楽のかかわりを味わおう（４時間扱い）

２　題材の目標

⑴　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身に付ける。〈知識及び技能〉

⑵　「冬げしき」と「スキーの歌」のリズム、速度、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもつ。〈思考力、判断力、表現力等〉

⑶　詩と音楽の関わりを捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組み、日本のうたに親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

３　教　　材　　冬げしき　スキーの歌　［文部省唱歌］

４　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①［知］「冬げしき」と「スキーの歌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容の関わりについて理解している。（歌唱） ②［技］思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付け、歌唱で表現している。（歌唱）	［思］①リズム、速度、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌唱）	［態］①詩と音楽の関わりを捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。（歌唱）

５　指導と評価の計画（全４時間）　　※丸数字・・・全員の学習状況を記録に残す場面

時	○学習内容　・主な学習活動	評価規準		
		知技	思考	態度
1	○２曲（「冬げしき」と「スキーの歌」）の旋律を歌って、楽曲の雰囲気を感じ取る。 ・範唱を聴いたり、ハミングや移動ドで歌う。 ・歌詞や情景に関する画像を見て、２曲の雰囲気を感じ取る。［ICT 活用①］	聴取		観察・記述
2	○２曲の曲想について、音楽の構造の共通点、相違点に着目して考え、表現する。 ［ICT 活用②］		①発言・記述	
3	○２曲の曲想について、歌詞の内容の関わりに着目して考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫する。 ・２グループ（「冬げしき」と「スキーの歌」）に分かれる。 ・歌詞の内容から歌唱表現を工夫する。録音する。［ICT 活用②］	［知］①		
4	○２曲の演奏方法の違いを通して、音楽の構造と歌詞の内容との関わりによって曲想が変化することを理解する。 ・２グループの演奏を聴き合う。	発言・記述　［技］②		①

※２，３時間目の学習内容を丁寧に取り組み，５時間扱いにすることも考えられる。

［ワークシート例］（スキーの歌）　［文部省唱歌］

♪詩と音楽のかかわりを味わおう①「スキーの歌」

５年　　組名前

１　歌詞からどんな情景が思い浮かびますか。

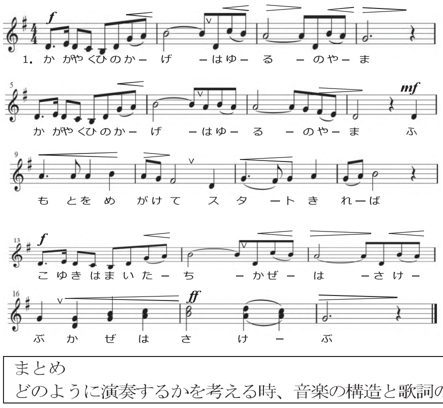
かがやく日のかげ　はゆる野山
かがやく日のかげ　はゆる野山
ふもとを目がけて　スタートきれば
粉雪はまい立ち　　風はさけぶ
風はさけぶ

○光り輝く雪山をふもとをめがけて勢いよく滑っている情景が目に浮かぶ。
○粉雪がキラキラ光り、風がビュービューと叫んでいるように耳に聞こえてくる。など

２　実際に音楽を聴いて、強弱、速度、音の高低について気づいたことを書こう。

○スキーを滑っている様子を表すために、音が高くなったり、低くなったりしている。
○風が叫んでいる様子を表すために、フォルテで歌っている。
○５段のうち３段は同じようなリズムである。

３　曲想と音楽の構造や歌詞の内容の関わりに着目して、どのように歌いたいか工夫して書こう。



歌　詞	音楽の特徴	どう歌いたいか
○１段目と２段目は、同じ歌詞を繰り返して、強調している。 ○スキーで山の頂上から麓まで滑ることが書かれている。 ○５段目と６段目で歌詞「かぜはさけぶ」を２回繰り返し、強調している。	○同じような旋律が１、２、４段目に繰り返し出てくる。 ○スキーで滑っているように流れるような旋律が使われている。 ○５段目は、２つに分かれていることと、*ff*があるので強調していると思う。 ○４段目の音符は八分音符が多いが、５段目は、四分音符と二分音符が多い。 ○３段目は、音符が少なくゆったりした感じがする。	○「輝く日のかげはゆる野山」が３回出てくる。１回目より２回目、２回目より３回目を強く歌いたい。 ○スキーで滑っている速さを感じられるように弾んで歌いたい。 ○「かぜはさけぶ」を２回繰り返している。１回目は細かい音符なので、弾むように歌い、２回目は、事実を伝えるようにひとつひとつの音を丁寧に歌う。

まとめ
どのように演奏するかを考える時、音楽の構造と歌詞の内容に着目することで、歌詞の内容や作曲者の思いを伝えやすくなる。

ア　題材の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等

児童の興味・関心を促す見方・考え方を設定することで、題材を通して、主体的・協働的に学習活動に取り組めるように工夫する必要がある。本題材では、３点工夫した。１点目は、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて児童自ら理解できるように、「音楽の構造」と「歌詞の内容」を２つに分けて設定した。２点目は、児童が思いや意図をもって歌唱の活動に取り組んだ結果、歌唱表現が豊かになったことが実感しやすいように、２曲同時に扱い、比較させた。３点目は、児童が、思考・判断・表現する一連の活動を常に興味・関心をもって活発に行えるように、「個人→ペア→グループ→個人」と学習形態を変化させた。発達の段階や児童や地域の実態に応じて工夫していく。

※充実した授業にするための有効な手段として、ＩＣＴを活用する。

ICT 活用① 大型モニター	・楽曲の雰囲気を一度で把握できるように、楽曲に合う景色を見せる。 ・移動ドで歌うことは、読み替えが難しく、書き込む時間もないため、移動ドを記入した楽譜を提示する。
ICT 活用② タブレット活用 （ＱＲコード）	・授業時に、児童自らタブレット等でＱＲコードを読み取り、児童が聴きたいタイミングで教科書の音源や、録音した演奏を確認することができるようにする。 ・教科書についているＱＲコードを家庭で読み取り視聴することで、予習復習の一部として活用できる。（全員が閲覧できるわけではないので配慮が必要である。）

イ　学習評価に当たっての工夫、配慮事項等

題材を通したワークシートを用意することで、評価しやすくなり、児童も見通しをもって活動することが出来る。「主体的に学習に取り組む態度」についての評価は、観察・発言・記述などから行い、１時間のみではなく、題材を通して判断することで、児童一人一人を的確に評価していく。

ウ　評価に基づく改善のポイント

「思考・判断・表現」についての指導と評価は、「知識」に関する学習における「音楽の構造」を捉えることと関連付けて指導するようにする。

<事例３>　曲想と音楽の構造との関わりに気付き、工夫して演奏する器楽の学習の事例

第３学年「曲のかんじを生かそう」

（指導要領との関わり：Ａ表現（１）歌唱　ア，イ，ウ(ｲ)　<u>（２）器楽　ア，イ(ｱ)，ウ(ｲ)</u>　Ｂ鑑賞　ア，イ）

〔児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素〕音色，リズム，旋律

１　題　　材　　曲のかんじを生かそう（７時間扱い）

２　題材の目標

⑴　曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な音色や響きに気を付けて歌ったりリコーダーを演奏したりする技能を身に付ける。〈知識及び技能〉

⑵　音色、リズム、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の演奏のよさを見いだし曲全体を味わって聴くとともに、曲の特徴をとらえた表現を工夫し、どのように演奏したりするかについて思いや意図をもつ。〈思考力、判断力、表現力等〉

⑶　曲想と音楽の構造との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、おどりの音楽や歌詞の様子に親しむ。〈学びに向かう力、人間性等〉

３　教　　材　　「メヌエット」「山のポルカ」「帰り道」

４　題材の評価規準

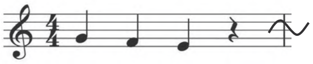
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①技曲想と音楽の構造との関わりに気付き、工夫して演奏する。（歌唱） ②知曲想と音楽の構造との関わりについて気付いている。（鑑賞） ③知技リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。（器楽）	思①音色、リズム、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったここと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。（鑑賞） 思②音色、リズム、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったここと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴をとらえた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（歌唱・器楽）	態①曲想と音楽の構造との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱、器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌唱・器楽・鑑賞）

知技は、知識と技能の両方の内容を対象とする。

5　指導と評価の計画（全７時間）　　　　　　　　　　　　　　　※丸数字・・・全員の学習状況を記録に残す場面

時	○学習内容　・学習活動 器楽に関わる部分のみ抜粋　　　　３～５時間目／全７時間	評価規準 知技	 思	 態
3	○曲想と音楽の構造との関わりに気付き、曲の特徴を捉えた表現を工夫して演奏する。 ・範奏用CDを聴き、既習曲であることに気付く。(２年生) ・「ファ」と「ミ」の運指を確認して吹く。・運指に気を付けてリコーダーを演奏する。			↓
4 本 時	○曲想と音楽の構造との関わりを聴き取り、運指や音色に気を付けて演奏の仕方を工夫する。 ・「ファ」と「ミ」は、息のつかい方やタンギングの仕方を工夫しながら演奏する。 ・曲全体が同じリズムで構成されていることに気付く。 ・音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する。		②聴取・記述	↓
5	○曲想と音楽の構造との関わりを生かしながら演奏する。 ・曲想と音楽の構造との関わりを生かし、息のつかい方やタンギングに気を付けて演奏する。	③知技発言・聴取		①観察・聴取

6　本時の展開(４／７時間目)

○学習内容・学習活動	○指導上の留意点　☆評価規準と【評価方法】
○曲想と音楽の構造との関わりを聴き取り、運指や音色に気を付けて演奏の仕方を工夫する。 ・既習曲を歌う。 ・「ファ」と「ミ」等を用いて、教師とリコーダーのまねっこリレーをする。 ・教師が演奏する旋律を聴き取り、リコーダーで演奏する。  以下続	○曲想と音楽の構造との関わりが感じ取れる曲を歌う。 ○運指やタンギング等、自分の音を確認しながらリコーダーを演奏できるようにする。 一人ずつ演奏させることで、適切な助言ができるようにする。
きょくのかんじに合ったふき方で「山のポルカ」をえんそうしよう	
○旋律やリズムの特徴を感じ取り、リコーダーを演奏する。 ・範奏CDや教師の範奏を聴き、感じたことや気付いたことを発表する。 ・リズム打ちなどを通して、全て同じリズムで構成されていることに気付く。 例 ・低い音の吹き方に気を付けながら、息の使い方やタンギングの仕方を工夫し、滑らかに演奏できるようにする。 ・ペアやグループ活動を通し、互いの演奏を聴き合い、工夫した点や良かった点などを発表し合う。 ・本時のまとめと振り返りをする。	○旋律やリズムの特徴について感じたことや気付いたことを整理して板書する。 ○C評価になりそうな児童への手立て 模範となる児童を紹介し、息の量やスピード、指穴の閉じ方に気を付けるように助言する。また、出来る部分や吹きやすい部分から練習を始め、出来たところを褒めることで達成感を味わわせ、スモールステップを大切にしながら練習に取り組ませる。 ☆思②【聴取・記述】 ○「山のポルカ」の旋律やリズムの特徴を聴き取り、タンギングや息の強さに気を付けて演奏しているか聴き取ることで評価する。

◆リコーダーの家庭学習について
リコーダーは繰り返し練習することによって演奏技能が定着する。ねらいを明確にし、学校と家庭の連携の中で取り組むことが大切である。
1．(例）家庭学習
リコーダー学習カードを用いて、家庭でも練習できるように取り組む。
2．(例）夏期休業中の家庭学習　「３年生　リコーダー導入学年対象」
３年生の１学期に学習する左手［ソ・ラ・シ・ド・レ］を用いた楽曲を２～３曲程度家庭でも練習できるようにする。発達段階に応じて曲を選んで練習できるようにする。
リコーダー学習 カードに、〈おうちの人から〉の一言欄を設け、親子で取り組めるように工夫する。 例 :「メリーさんのひつじ」「ちょうちょう」など

日付	曲名	運指	タンギング	確認印
	山のポルカ	○	△	●
	山のポルカ	◎	◎	●

リコーダー学習カード例（家庭学習）

ア　題材の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等
リコーダーの学習は３年生から中学校まで継続的に取り組むため、児童自らが表現のよさに気付くよう、互いの演奏を聴き合うようにすることが大切である。配慮が必要な児童においては、拡大楽譜などを用いて分かりやすく掲示する。また、音楽に合わせて一緒に拍を打ったり、体を動かしたりして、要素の表れ方を視覚化、動作化したり、易しい部分や、一部分を取り上げたり、速度を落として演奏したりしながら取り組む。

P126 指導計画作成の留意事項⑴

イ　学習評価に当たっての工夫、配慮事項等
リコーダーの入門期には、一人ずつのリコーダーの演奏を聴き取るなど、様々な評価場面を設定し、児童の伸びや変容が評価できるようにする。「グループ→ペア→個人」「リレー」「部分演奏」等

ウ　評価に基づく改善のポイント
「技能」の評価に関しては、児童のつまずきを的確に把握し、教師や友達による適切な助言を適宜加えながら、スモールステップの課題を与えるなど、達成感を味わえるような指導の工夫をする。題材を通し、主体的に学習に取り組む態度を継続してもち続けられるようにする。